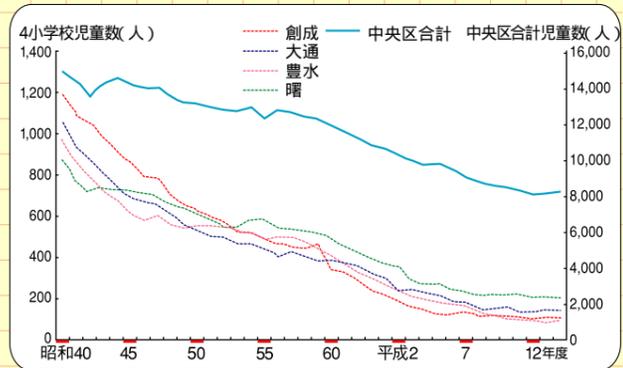


中央区および4小学校児童数の推移



変わりつつある札幌駅北口

南三条西七丁目目の創成小学校跡地では現在、都心部子供関連複合施設への建設が進められています。この施設は、少子化を背景として、児童数が著しく減っている都心部四小学校(創成・大通・豊水・曙)の統合校を中心に、「保育所」「ミニ児童会館」「子育て支援施設」を併設した本市初の複合施設です。複合化によって生まれる相乗効果や都心部という立地条件を生かすことにより、子供たちの健全育成という大きな目的を果たすことが期待されています。オープンは、平成十六年四月の予定です。



都心部子供関連複合施設の完成予想図

(仮称)都心部子供関連複合施設



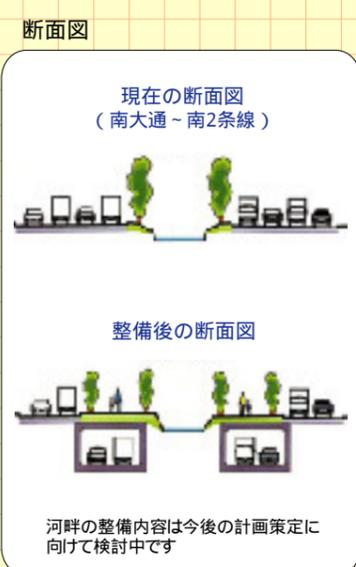
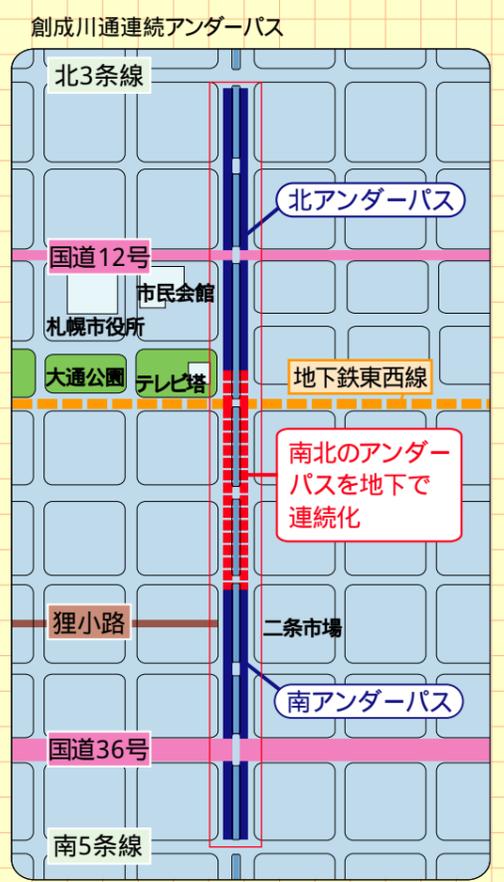
建設中の「札幌エルプラザ」

札幌駅北口8・3地区

札幌駅北口の「8・3地区」(北八条西三丁目)では来春、北口広場に面した民間施工の再開発ビル「札幌エルプラザ」がオープンします。この再開発ビルの二階から四階に、「男女共同参画センター」「消費者センター」「市民活動サポートセンター」「環境プラザ」(いずれも仮称)が設置され、より利便性の高い市民の活動拠点施設となります。オープンは平成十五年九月の予定です。



都心部子供関連複合施設を建設中の創成小学校跡地



現在の創成川通のアンダーパス

市では、中央区創成川通の南アンダーパスと北アンダーパスを結び連続化させる事業を進めています。都市計画道路である創成川通は、都心南北交通の主軸であり、また、道路中央に位置する創成川は、歴史的なシンボルであるとともに、札幌の街並みにおける南北の軸ともなっています。計画では、現在ある二つのアンダーパス(南五・南三条線・南二条線・南大通線)と北三条線を連続化し、南五条線から北三条線までを一気に抜けられるようにします。これにより、都心部を利用する交通と、

### 10年間の段階的実行プラン

#### 人と環境を重視した都心交通計画とは?

札幌の交通基盤は、ほかの政令指定都市と比較して高い道路整備水準にあります。しかし近年、都心の交通量は横ばいであるにもかかわらず、都心に目的のない通過交通が1日に9万台あることや、路上駐車が増加していることにより、都心内道路の混雑状況が悪化しています。また、歩行者が都心に求めるものも多様化しており、都心におけるさまざまな活動を支える交通体系の実現が求められています。

このため札幌市では、10年間で実施可能と考えられる施策の段階的な実行プログラムを策定し、都心のまちづくりを交通面から支える新しい時代の都心交通の実現に向けた計画として、平成15年度末をめぐりに「都心交通計画」をまとめる予定です。

創成川の河畔では、アンダーパスの整備に合わせて潤いと憩いの空間を創出することも予定されており、地域の活性化も期待されています。この事業は平成十六年度の着工、十九年度の完成を目指しています。通過するだけの交通が分離され、交通混雑の緩和が期待されます。また、地上交通量の減少により、歩行者の安全が確保されるほか、騒音の低減により都心環境の改善も図られます。

創成川通アンダーパス連続化計画